

令和3年度 学校評価【自己評価】の概要について

1 各部等の自己評価

令和3年12月、今年度の目標等について自己評価を行い、反省を行った。

(1) 重点目標

全体的におおむね達成できたという肯定的な評価となった。

重点項目アについては、新学習指導要領に向けた指導の研究や、ICT機器を活用した学習活動をさらに推進するとともに、家庭学習を含めた生徒の学習習慣確立に向け指導を展開したい。

重点項目イについては、昨年度の経験を生かし、コロナ禍においても工夫をして活動を実施することができ、生徒の成長につなげることができた。今後も効果的かつ効率的な指導を展開したい。

重点項目ウについては、挨拶の励行による活気ある学校作りが定着してきている。今後はより規則正しい生活が出来るよう、継続して指導を展開したい。

(2) 各部

全体的におおむね達成できたという肯定的な評価となった。

昨年度の経験を生かしたコロナ禍における経営のあり方、時代背景に合わせた指導のあり方等について検討及び協議を行ってきたが、今後も校内はもとより、他校を含めた関係機関との情報交換等を行いながら、円滑な経営(指導)を進めたい。

(3) 各学年

全体的におおむね達成できたという肯定的な評価となった。

1・2年生についてはまだまだ課題が多いものの、最高学年であり学校を引っ張っていく立場の3年生が良い手本として行動してきた。これを良い伝統として後輩に引き継ぎ、栃農高をさらに飛躍させることが出来るよう、職員のみならず生徒にも意識づけを行い、効果的かつ効率的な指導を展開したい。

(4) 各学科

全体的におおむね達成できたという肯定的な評価となった。

昨年度の経験を生かすとともに、各学科の特徴を生かし、創意工夫をした指導を展開することができた。今後は農業高校としてのプライドをもとに、指導内容や方法の研究をさらに進め、生徒の成長に資する指導を展開したい。

2 生徒・保護者アンケート

令和3年12月、生徒及び保護者へのアンケートを行った。

(1) 生徒アンケート(23項目)

肯定的回答が80%を越えた内容については16項目(昨年度比+5)、肯定的回答が30%を下回った内容については1項目(昨年度比-1)、前年度から肯定的内容が5ポイント増加した内容については8項目(昨年度比+6)、前年度から肯定的内容が5ポイント低下した内容については1項目(昨年度比±0)であった。昨年度はコロナ禍による影響によって学校行事等が中止又は変更となったが、今年度は工夫して実施できた部分が多く、それが肯定的回答につながったと考えられる。一方、家庭学習や読書習慣については依然として低い数値であることから、今後も重点的に指導したい。

(2) 保護者アンケート(19項目)

肯定的回答が80%を越えた内容については13項目(昨年度比+7)、肯定的回答が30%を下回った内容については1項目(昨年度比±0)、前年度から肯定的内容が5ポイント増加した内容については16項目(昨年度比+16)、前年度から肯定的内容が5ポイント低下した内容については0項目(昨年度比-4)であった。本校の指導等について一定の評価をいただいたとともに、今後の指導等に期待していただいている数値であると考えられる。今後も学校のみならず、家庭と連携した教育活動が展開できるようにしたい。

(3) その他

自由記述回答欄については、生徒、保護者ともに、多くの貴重な意見が寄せられた。早急に改善が必要な内容(改善できる内容)、長期的に改善していくべき内容、現実的に改善が厳しい内容等、様々な内容が見られるが、昨今の社会情勢や本校の目指す教育等を踏まえたうえで、精査して今後の教育活動を展開したい。また、生徒、保護者ともに本校へ入学して良かったという項目が昨年度に引き続き80%を超える肯定的回答となった。この想いを裏切らないためにも、さらに充実した教育活動を展開したい。